

「天国はこのような者の国」－マタイによる福音書講解説教 79－

詩篇 第65篇 1節～5節  
マタイによる福音書 第19章 1節～15節

説教 岡村 恒牧師

「天の国は、このような者の国である。」(14節)  
主イエス・キリストが子どもたちに手を置いて祝福されたとき、そう言われました。

ここまで、主イエスは繰り返し、天の国とはどういう国か、また、どうしたら天の国に入ることができるかを、弟子たちと人々に語り続けてこられました。ところが、誰も、主イエスの言葉を少しも理解することができずにきたのです。ある説教者は、子どもたちを祝福する主イエスの姿に、十字架の上で私たちのために執り成しの祈りを祈って下さった姿を重ね合わせて見てきました。子どもたちを祝福する主を見ると、主イエスが何のために地上に来て下さったお方が分かるのです。

エルサレムに向かう今回の旅は、最後の旅となります。主イエスをとらえて殺そうとする人々が待ち構えるエルサレムへ向かって歩き出しています。そして最初に問われたのが、パリサイ人による、離婚に関することでした。これには背景があります。当時のヘロデ大王が、自分の兄弟の妻を取り上げて自分の妻にするという事件がありました。それをバプテスマのヨハネが、これは「よろしくない」と指摘し、そのために首を切られたのです(マタイによる福音書14章1節～12節)。この離婚問題の問いには、イエス・キリストに当時の支配階級の好まぬことを言わせて畏にかけようとする悪意があったのでしょうか。旧約聖書で結婚は、神と人間との関係に重ねて語られて来ました。人間の都合で、結婚についても何か抜け道を作って、結局、神との関係まで破壊してしまう人間の愚かさを、主イエスをご存知でした。主イエスが「神に愛され、神のものとされたあなた方が、神を捨てて滅びるようなことがあってはならない」と言われるのが、今日の場面です。

人々が、主イエス・キリストに祝福をしてもらおうとして子どもたちを連れて来ました。弟子たちは、主イエスと子どもの中に割って入ります。主イエスは「幼な子らをそのままにしておきなさい、わたしのところに来るのをとめてはならない」(14節)と言われます。別の福音書では「私の前に立つな、間に入ってこの子どもが私のもとへ来るのを邪魔立てするな」と激しくお怒りになりました。主イエスは、子どもたちを招き寄せ、祝福することで、人がどのように神に赦され、神の子とされるかをお見せになりました。

この日、主は独身者についてもお語りになりました。ある人は独身で《結婚》ということをして神にささげて生きる、そうでない人もいる、そう言われました。代々のキリスト教会は結婚をとて大事にしてきました。神と私たちの関係が結婚を通していよいよ深く分かるからです。しかし私たちは誰もが、神がお造りになった世界を破壊しながら生きて来ました。すべてのものが、神によって造られ、支えられていることを忘れてしまうのです。結婚についても、神がお定めになり、神が祝福なさいます。一人一人に神が歩むべき道を与えて下さるのです。

この方に手を置いて祝福していただきたい、それがこの子にとって最も必要な、良いことだ、親たちはそう思いました。何かのまじないや人間の祈禱などはどうでもよい、主イエスに祝福して祈っていただくことが、この子にとってなくてはならないことなのです。主イエスは神の国に入る一本の道をお示しになります。もう神の国が来た。ほらごらんない人が躍り上がった。目を開いて見たことのない人が全ての美しい世界を目にするようになった。口を開いて話すことのなかった人が神をほめたたえている。もう既に、神の全能の力がこの世界に突入して、救いの御業を始めているのだと。

今日の夕方、この教会で夕涼み子ども会をします。子どもたちが楽しい時を過ごして、さらに神の祝福を受けて生きるように計画をして行われます。手をいっぱい広げて飛びついてくる子どもがいます。そこには不安や恐れはありません。「天の国はこのようなものの国である」。そう主イエスが仰ったことは慰めに満ちています。私たちもそうしてよいと仰るのですから。

「天の国はこのようなものの国である」。主イエス・キリストがそうお語りになるとき見ておられたのは、目の前の幼な子だけでなく、今ここにいる私たちです。主は今朝も、私たち一人一人を招いてくださいます。「このようなもの」から一人も漏れて滅びることのないように。この招きにお応えして主のみ腕の中に飛び込む者は、決して失望することはありません。代々の教会が、キリスト者たちが、今あなたのかたわらにいる信仰者が、この約束が真実だということの証拠です。神の約束は真実です。

(記 説教要約奉仕者)